



Daiwa House
Group

大和ハウスグループ

“脱炭素社会”に向けた取り組み

－ 脱炭素経営とSDGsにおける企業価値向上 －

2019年 2月 8日

大和ハウス工業（株）

環境部 ZEH・ZEB推進室

室長 新道 洋介



エコ・ファースト企業
環境大臣認定

We Build ECO

Daiwa House Group®

Daiwa House Group

1. 大和ハウスグループの概要

2. 大和ハウスグループの“脱炭素”経営



1. 大和ハウスグループの概要

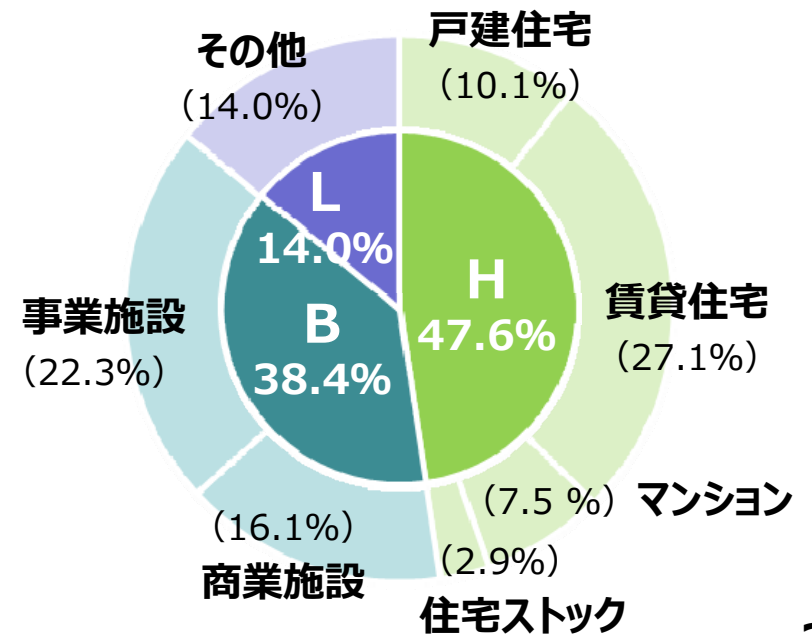
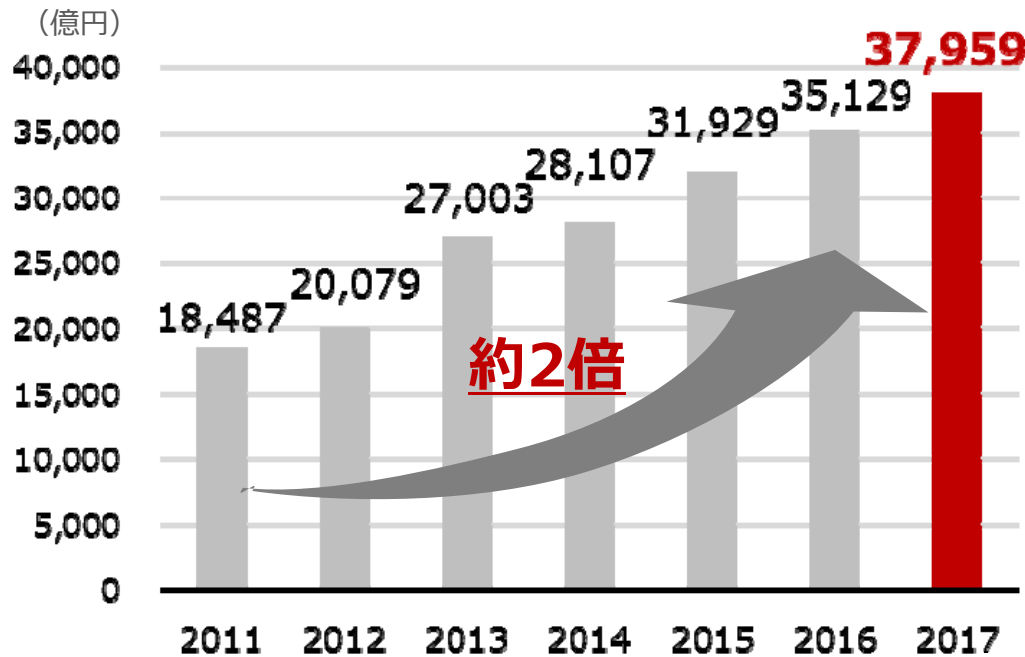
■ 人・街・暮らしの価値共創グループ ■



《売上高》 3兆7,959億円

《従業員数》 39,770名

《会社数》 304社



創業者;石橋信夫の精神 = 私たちの事業の原点



何をしたら儲かるかではなく、
どういう商品が、どういう事業が
世の中のためになるかを考える。

すべてはここから始まった

創業者：石橋信夫（1921～2003年）



次世代経営者の育成
「大和ハウス塾」

木材不足を解決し、
日本の建築に革命をもたらす
1955年 パイプハウス(創業商品)



ベビーブームによる急激な人口増加に対応したプレハブ住宅の原点
1959年 ミゼットハウス



民間の金融機関と提携し、
マイホームの資金問題を解決
1962年 住宅ローンの先駆け



モータリゼーションの進展による新たな市場開拓
1976年 流通店舗事業の展開



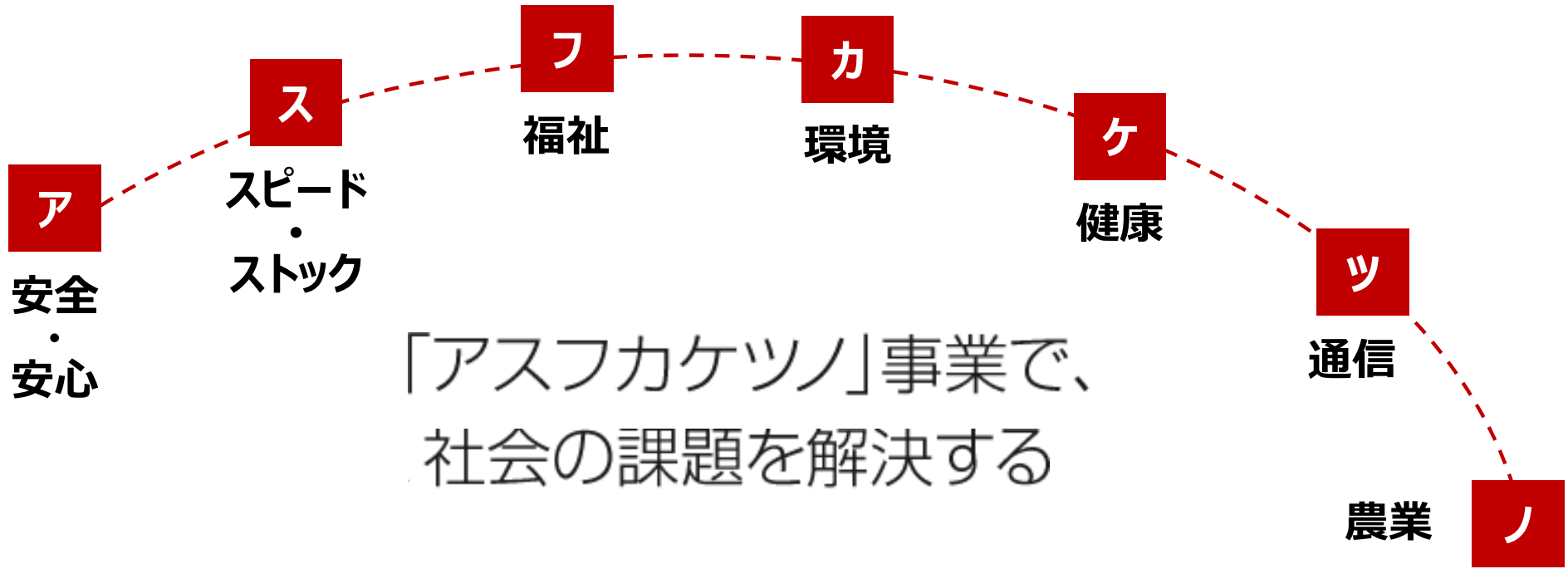
医療・介護施設に関わる問題を調査・分析する独自の研究機関
1989年 シルバーエイジ研究所の設立



生活インフラ・産業インフラの一翼を担う物流改革
2003年 大型物流施設の開発

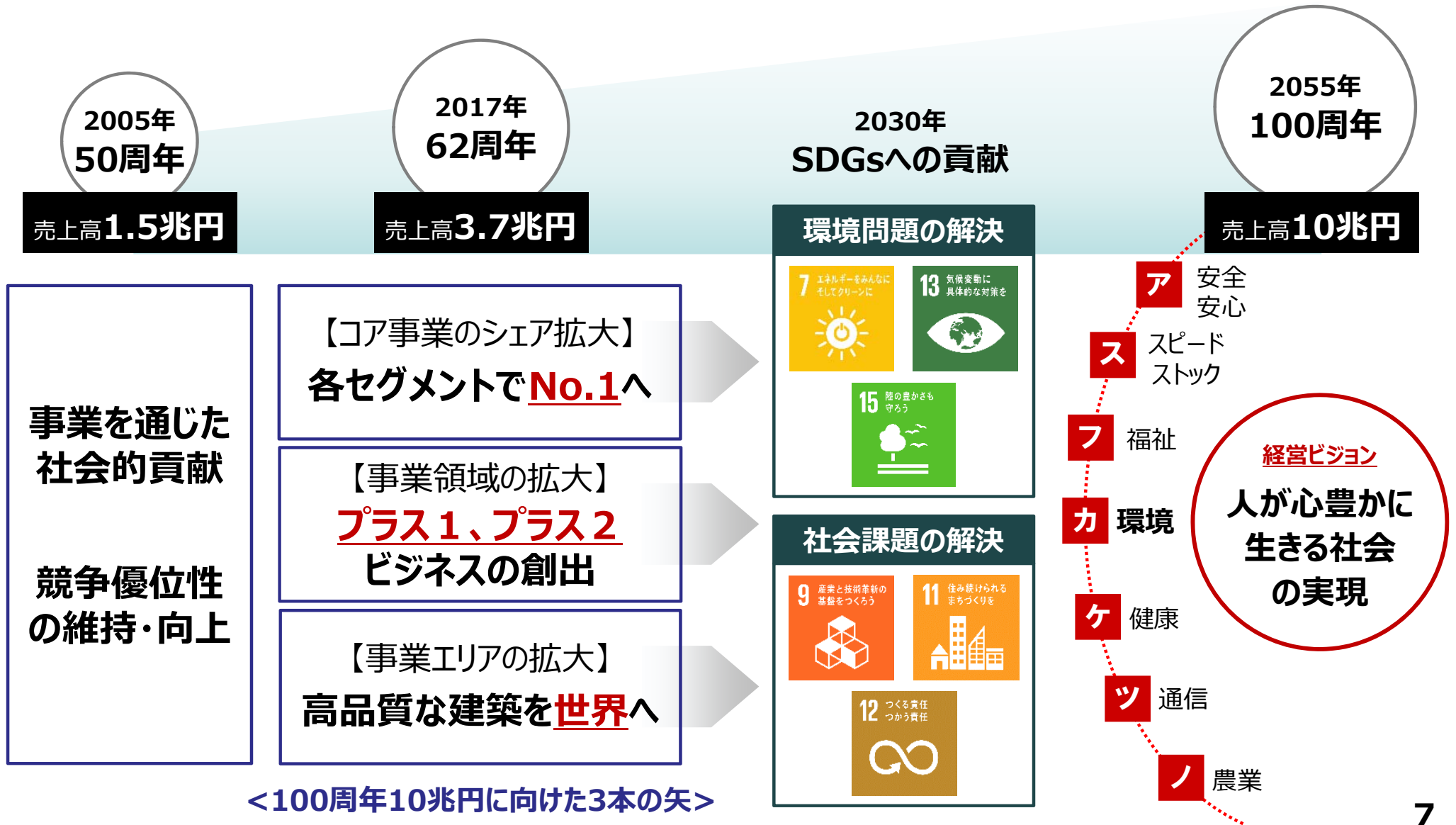



社会価値革命 – アスフカケツノ事業で明日の価値を創出 –



「アスフカケツノ」事業で、
社会の課題を解決する

➤ 世界共通の社会課題（**SDGs**）に向き合い、**100周年10兆円**に向けた**3本の矢**に沿って、新たな**事業機会の拡大**に取り組む





2. 大和ハウスグループの“脱炭素”経営

全196カ国
が合意

パリ協定 (2015年12月、COP21)

地球の平均気温上昇を2℃より十分低く抑える
(1.5℃未満に抑える努力を追求)

2050年

世界のCO₂排出
▲50~70%
(2010年比)

今世紀後半

世界のCO₂排出
実質ゼロ

世界の常識は

「低炭素」から『脱炭素』へ

(できるだけ省エネ)

(ゼロエネ・再エネ100%)

例)

【フランス・英国・カナダ】

石炭火力発電の全面廃止

(仏:23年、英:25年、加:30年まで)

【フランス・英国・中国】

ガソリン車の販売禁止

(仏:40年、英:40年まで)

【中国】

排出量取引市場を創設

(1700社、約30億トンが対象)

【環境重点テーマ】

Challenge1

気候変動の緩和と適応

Challenge2

自然環境との調和

Challenge3

資源保護
水資源保護

Challenge4

化学物質による汚染の防止

【段階】



調達

資源採掘
原材料輸送
資材製造
資材輸送



自社活動

事務・車両
工場・物流
施工・改修
解体
事業施設



商品・サービス

戸建・賃貸住宅
マンション
リフォーム
商業・事業施設
環境エネルギー

Challenge ZERO 2055



環境負荷“ゼロ”に挑戦

環境長期ビジョン “Challenge ZERO 2055”

大和ハウスグループは、「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、
サステナブルな社会の実現を目指し、
グループ、グローバル、サプライチェーンを通じて、環境負荷“ゼロ”に挑戦します。

最重要
テーマ

Challenge 1

気候変動の緩和と適応

(地球温暖化防止・エネルギー)

脱炭素社会の実現に向け、徹底した省エネ対策の
推進と再生可能エネルギーの活用により、**ライフサイ
クルにおける温室効果ガス排出量ゼロ**を目指します。

Challenge 2

自然環境との調和

(生物多様性保全)

自然資本の保全・向上に向け、材料調達による**森
林破壊ゼロ**の実現と、緑あふれる街づくりによる**緑の
ノー・ネット・ロス**を目指します。

環境
重点テーマ

Challenge 3

資源保護

(長寿命化・廃棄物削減・水資源保)

資源循環型社会の実現に向け、住宅・建築物の長
寿命化と廃棄物のゼロエミッション、さらに健全な水
循環を通じて**資源の持続可能な利用**を目指します。

Challenge 4

化学物質による汚染の防止

住宅・建築物のライフサイクルを通じた化学物質の
適正管理に取り組み、人や生態系に悪影響を及ぼ
す**リスクの最小化（ゼロ）**を図ります。

※ 各イニシアチブにおける企業数は2018年10月1日現在



2℃目標に沿った
長期目標 (SBT)

【認定企業】
世界140社
(国内29社)

RE 100

再生可能エネルギー
100% (RE100)

【参画企業】
世界152社
(国内12社)

EP 100

エネルギー効率2倍
(EP100)

【参画企業】
世界33社
(国内1社)

全てへの参画は、住宅・建設業界で世界初

気候変動に関する積極的な企業姿勢を発信し、
グローバルなビジネス舞台での『パスポート』を得る

➤ ビジネスパートナーとしての信用力向上

国内外に環境先進企業としての認知を拡げることで、ビジネスパートナーとしての信用力を向上できる

➤ グローバル先進企業とのネットワーキング

各加盟企業との定期会合、情報交換等を通じて、グローバル先進企業とのネットワークを構築でき、ビジネス機会が広がる

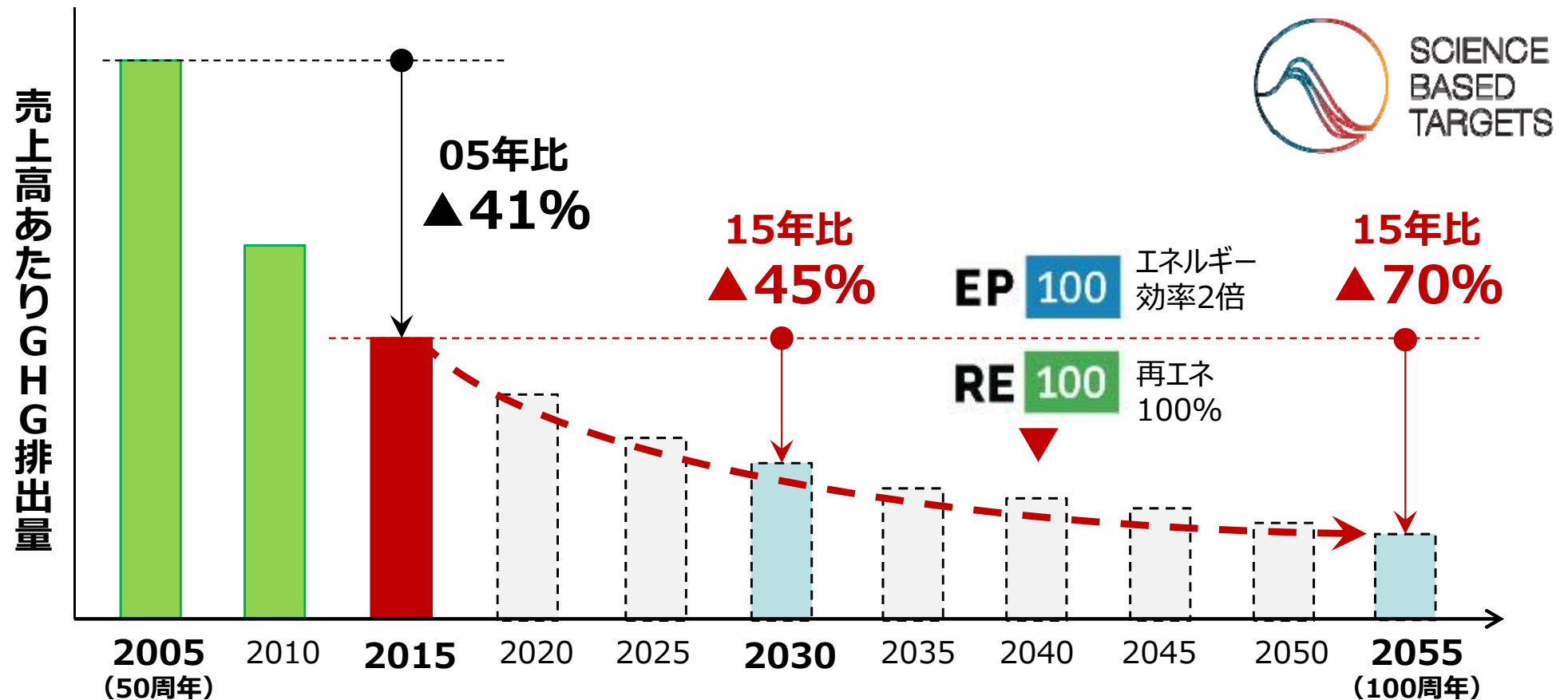
➤ ESG評価の向上を通じた投資資金の呼び込み

2,500兆円といわれるESG投資。最大の関心事である「気候変動」への積極姿勢を示すことで、大きなアドバンテージを得ることができる

➤ オープン・イノベーションの誘発

先導的かつ長期的に「気候変動」対策に取り組むことを社内外に示すことで、様々なイノベーションを引き起こす可能性が広がる

- 自社活動におけるCO₂削減について、“2℃目標”と整合した長期にわたる削減目標を設定
- 05年からすでに4割減らしてきたCO₂排出量を、**2030年までに15年比▲45%、2055年（創業100周年）には同▲70%を目指す**



CO₂削減 = 省エネ + 再エネ

【事務所・展示場】 917カ所



【物流】 560台



【商業施設・店舗】 440カ所



【介護施設】 7カ所



【車両】 13,547台



【物流倉庫】 62カ所



【リゾートホテル】 29カ所



【都市型ホテル】 52カ所



【工場】 31カ所



【施工現場】 7,138千㎡



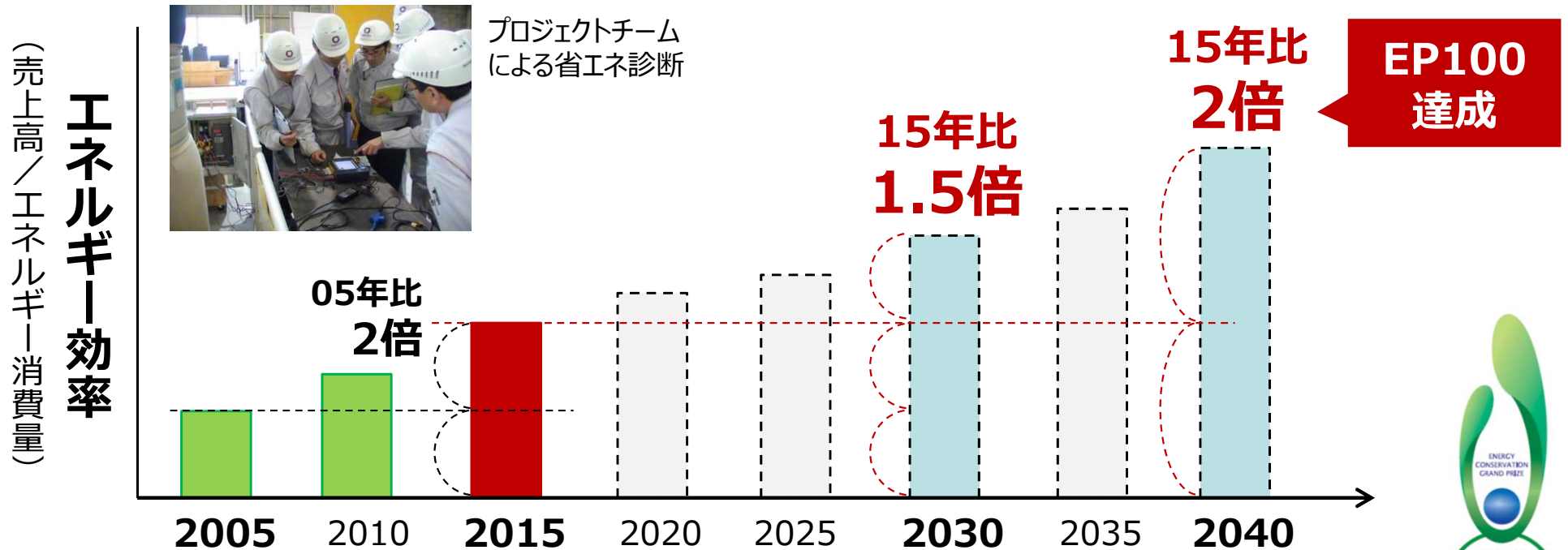
【スポーツクラブ】 73カ所



【駐車場】 2,321カ所



- 05年からの10年間で、すでに“エネルギー効率2倍”を達成
- 今後、2030年までに15年比1.5倍、40年に同2倍を目指す



■ 既存施設での省エネ

- 建物用途毎にトップランナー事業場を選定し、集中的に省エネ対策を実施し水平展開
- 毎年、エネルギーコストの15%を省エネ投資へ
- 環境に配慮した高度な施設オペレーション
※東京ビルがLEED（既存）のプラチナ認証を取得

■ 新築施設のZEB化

- 新規に建設する事務所や商業施設では、先端技術を積極的に活用しZEB化を推進

大規模店舗では日本初となるZEB
「ロイヤルホームセンター津島店」



● LEED認証とは？

- LEED認証は、米国グリーンビルディング協会が開発した国際的な**建築物環境性能評価システム**。
- **7つの評価項目**（敷地選定、水資源の保全と節水、エネルギーと大気、材料と資源、室内環境、革新性、地域別重みづけ）の合計点で格付され、**プラチナ、ゴールド、シルバー、標準**の4段階評価。
- **LEED-EBOM認証（既存建物）**は、既存ビルの運用・管理について、その評価・認証を行うもの。



既存ビルの「プラチナ認証」では、国内最大規模（面積・階数）



建物概要

所在地	東京都千代田区飯田橋3丁目13番1号
建物用途	事務所
建物高さ	107.55m（塔屋を含む）
構造・規模	地上23階（S造）、地下2階（SRC造）
敷地面積	38,600.14㎡
延床面積	47,246.78㎡
設計	大和ハウス工業・日建設計 設計監理JV
施工	大和ハウス工業・戸田・鉄建 建設JV
竣工	1999年5月24日
入居人数	約2,200名（2017年3月）

ロイヤルホームセンター津島店 「大型ZEB店舗の実現」

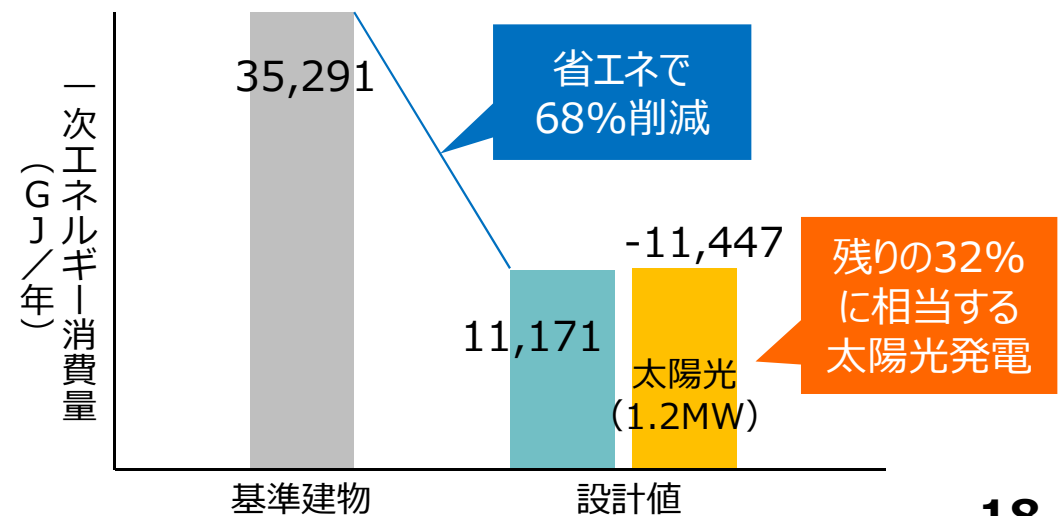
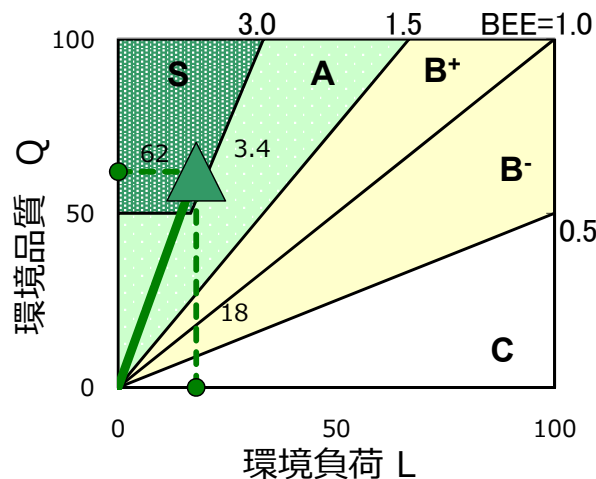
- 1万㎡を超える大規模店舗では、**“日本初”**となるZEB店舗
- 基準建物比▲68%の省エネ、1.2MWの太陽光でZEBを実現

名称 : **ロイヤルホームセンター津島店**
 設計・施工 : 大和ハウス工業 名古屋支社
 建設地 : 愛知県津島市柳原町3丁目1-1
 構造 : 鉄骨造 1 F 建
 敷地面積 : 29,983.72㎡ (9,070坪)
 延べ面積 : 13,695㎡ (4,142坪)
 竣工 : 2016年4月

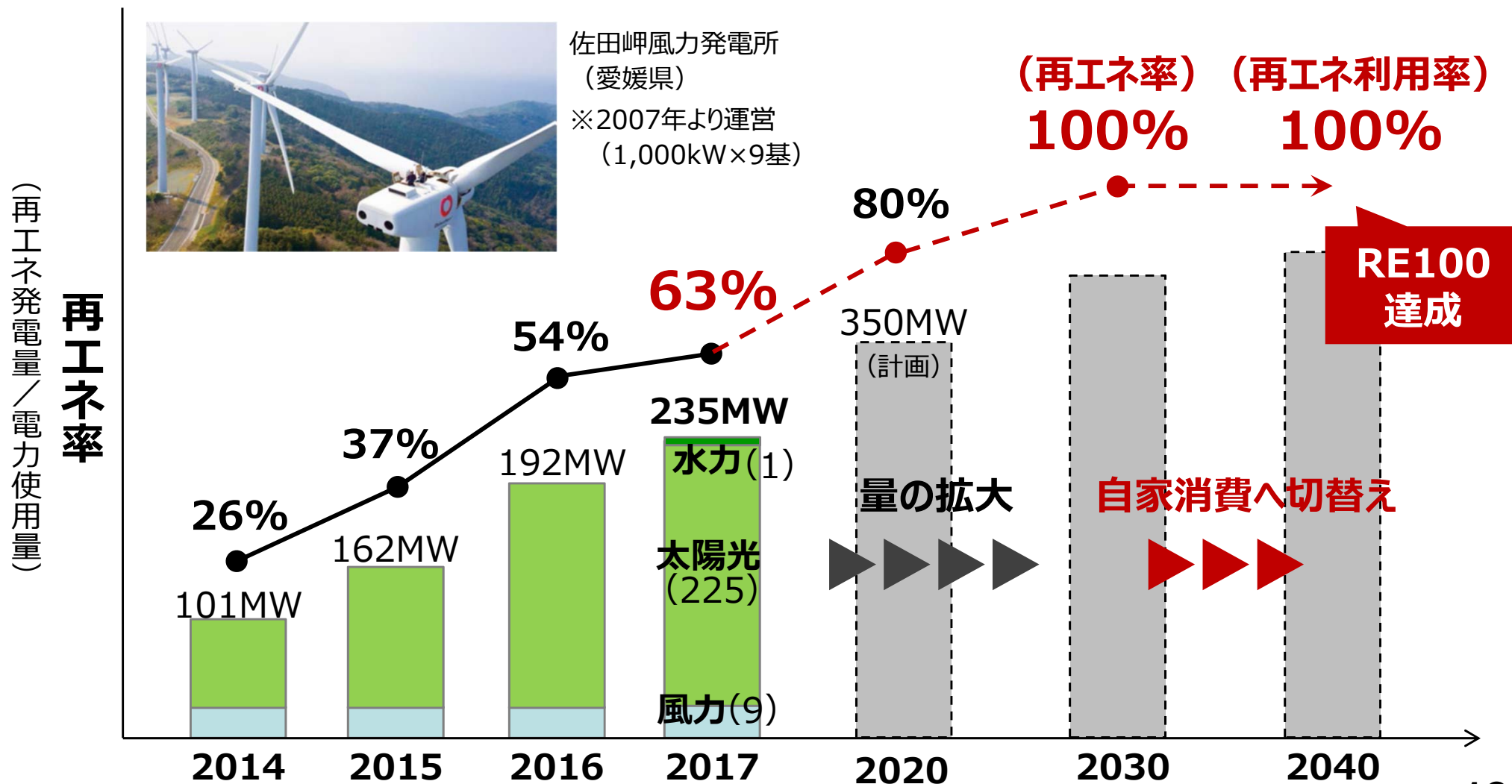


■ CASBEEあいち評価結果 Sランク (自己評価)

BEE = 3.4 ★★★★★
 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★



- 17年末現在、再エネ発電量はグループ電力使用量の約63%
- 今後、2030年までに電力使用量を上回る再エネ発電（売電含む）を建設・稼働し、順次、自家消費に切り替え、2040年には全ての使用電力を再エネで賄う



DREAM Solar/Wind 「再エネ発電事業の展開」

- 17年末現在、235MW（180件）の再エネ発電を稼働中（売電、自消含む）
- 計画中を含めると、20年までに350MW（260件）となる見込み

◆発電事業の展開状況

- 太陽光発電（地上設置）
- ▲ 太陽光発電（屋根上設置）
- ◆ 風力発電
- グレー色は、建設・計画中



DREAM Solar 岡山工場



DREAM Solar 恵庭



DREAM Solar 北九州ひびき港



佐田岬風力発電所

➤ 不動産開発で培った
多様な事業スキームの構築

➤ 建築技術で培った
多彩な施工技術の活用

大和ハウス佐賀ビル 「脱炭素を先取りした“電力自給”オフィス」

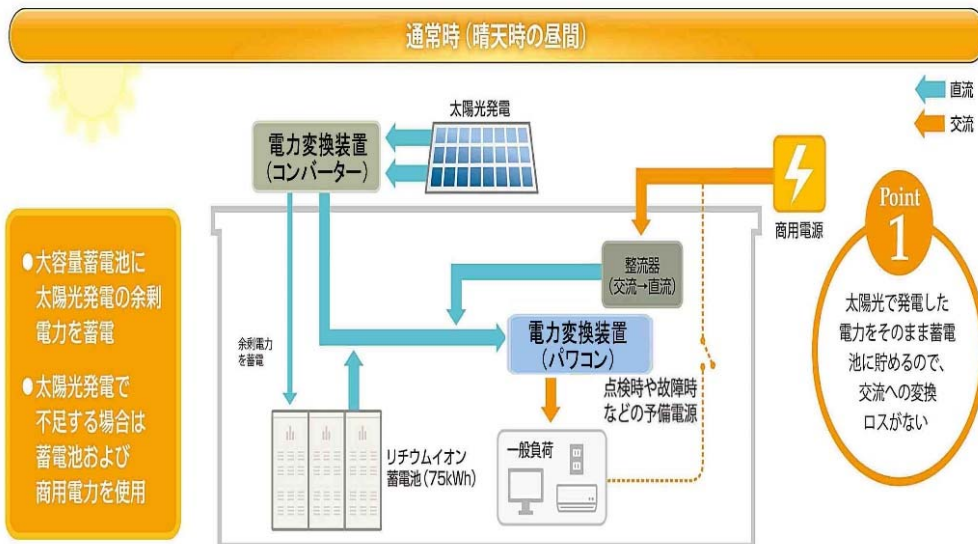
- エネ効率2倍（EP100）、再エネ100%（RE100）を具現化した「佐賀支店ビル」
- 太陽光発電と蓄電池を組合せ、日本初の「電力自給オフィス」を実現

ZEBの
進化形

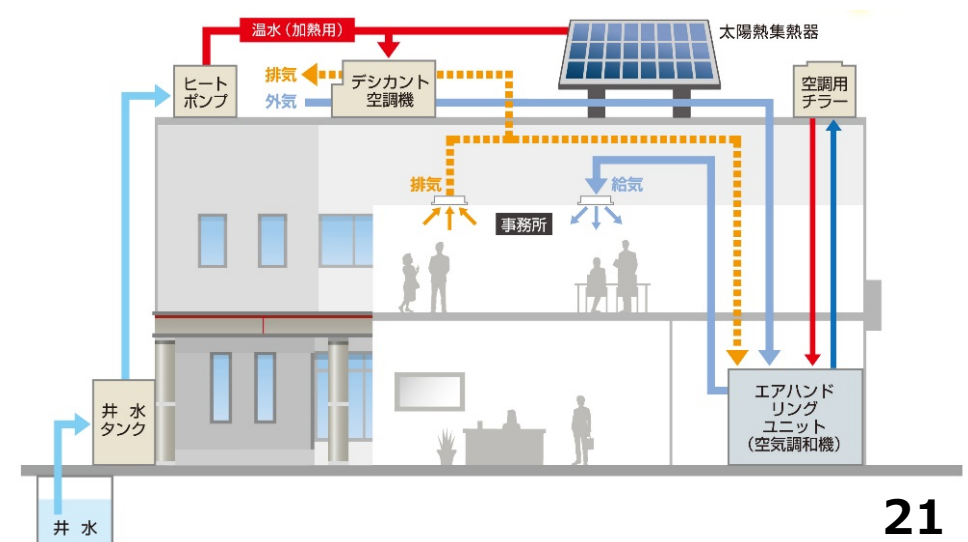
名称 : **大和ハウス佐賀ビル**
 設計 : 大和ハウス工業 佐賀支店
 建設地 : 佐賀市成章町6番5号
 構造 : 鉄骨造2F建
 敷地面積 : 5,556.33㎡ (1,681坪)
 延べ面積 : 2,444.57㎡ (739坪)
 竣工 : 2018年2月



■ 電力自立システム（太陽光:83kW、蓄電池:105kW）

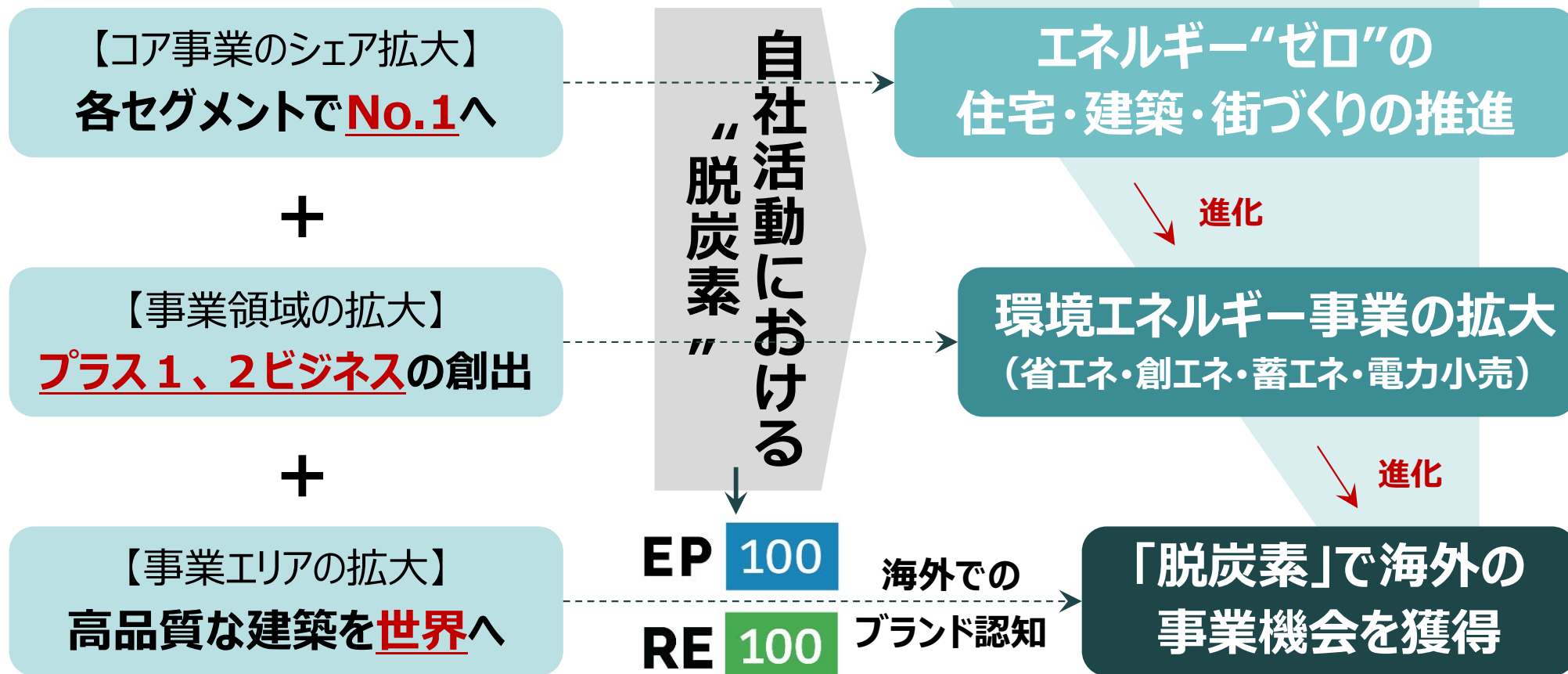


■ 井水・太陽熱利用ハイブリッド空調システム



- 自社活動における“脱炭素”を起点に、100周年10兆円に向けた成長戦略に沿って、“戦略的環境活動”を進化させていく

100周年10兆円に向けた
成長戦略（3本の矢）





Daiwa House®

大和ハウスクループ

ありがとうございました。

【WEB】 大和ハウスクループ「環境への取組み」

<http://www.daiwahouse.com/sustainable/eco/>

【問合せ】 大和ハウス工業（株）環境部

（TEL）06-6342-1346 （e-mail）eco@daiwahouse.jp